

## Prevalence and predictors of atrial fibrillation in Japanese patients with type 2 diabetes

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大武, 幸子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00033240">https://doi.org/10.20780/00033240</a>

## 主論文の要旨

Prevalence and predictors of atrial fibrillation in Japanese patients with type 2 diabetes

日本人 2 型糖尿病における心房細動の有病率およびそのリスク因子に関する横断研究

東京女子医科大学内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野  
(指導：馬場園哲也教授)  
大武幸子

Diabetology International

<https://doi.org/10.1007/s13340-021-00509-2> (doi:10.1007/s13340-021-00509-2)

### 【要 旨】

日本人 2 型糖尿病における心房細動の有病率を推定し、一般集団と比較すること、さらに心房細動を合併した糖尿病患者の臨床特性を明らかにすることを目的とした。

2004 年から 2005 年までに 12 誘導心電図が記録された 2 型糖尿病患者を対象とした。心房細動は弁膜症と非弁膜症に分類した。糖尿病患者における心房細動有病率を、2003 年に日本循環器学会が調査した日本人一般集団と比較した。多変量 logistic 回帰分析を用いて心房細動の合併に関連する臨床特性を検討した。

対象患者は 1,650 名、女性 588 名、男性 1,059 名、平均年齢は  $60 \pm 13$  (標準偏差) 歳であった。72 名 (4.4%) が心房細動を有しており 12 名 (0.7%) が弁膜症性心房細動、60 名 (3.6%) が非弁膜症性心房細動であった。性別の有病率は女性 2.5%、男性 5.4% であった。高齢患者で心房細動全体および非弁膜症性心房細動の頻度が高い傾向であった。日本人一般集団に対する年齢・性調整後の心房細動のリスク比は 3.47 (95% CI: 2.77-4.37) であった。心房細動および非弁膜症性心房細動に有意に関連する要因は、男性、高血圧、血小板の減少であった。

日本人 2 型糖尿病患者における年齢・性調整後の心房細動有病リスクは一般集団の約 3.5 倍であった。高齢・男性・高血圧および血小板の減少が糖尿病患者における心房細動の独立した予測因子であった。